

トータルパッケージ 活用セミナーの開発

○山科正寿（障害者職業総合センター研究部門 主任研究員）・
田村みつよ・渋谷友紀・村久木洋一・武澤友広（障害者職業総合
センター研究部門 研究員）

1 背景と目的

○障害者職業総合センター研究部門では、1999（平成11）年度から「職場適応促進のためのトータルパッケージ」（以下「TP」という。）の開発を進め、併せて、支援現場におけるTPの活用を促進するための研究を行っている。

○今般、TPが効果的に活用されることを目的とした知識伝達の方法（セミナー）を検討し、併せて当該セミナーの教材を作成したため、その過程を報告する。

2. セミナー開発の方法

セミナー開発の考え方

○セミナーは、近年、その有用性が指摘されている**インタラクショナルデザイン**の考え方に基づき、**ADDIE**モデルを用いて開発を進める。

○**ADDIE**モデルは教育プログラムを開発する際に使用するフレームワークで、学習ニーズの分析、教育プログラムの設計と開発を行うことで、受講者の行動を変化させ、パフォーマンスを向上させることを目的としたトレーニングプログラムを開発する際に有効とされている。

ADDIEモデルへの準拠

○ADDIEモデルは

「分析」 → 「設計」 → 「開発」 → 「実施」 → 「評価」

の過程から成る。

3. セミナー開発の過程

ADDIEモデルへの準拠（分析）

TP活用状況やニーズ・課題について、2つの調査で把握

○アンケート調査報告

○面接調査結果報告

結果については、昨年度（2020年）の職リハ実践・研究
発表会で報告

ADDIEモデルへの準拠（設計）

第一段階



①コースの目的を主要なコース目標へ変換する。

第二段階



②インストラクションの主要単元、もしくはトピックスと、それぞれ単元の主要な学習成果及び各単元にかかる時間を決定する。

③各単元における学習成果を高めるために、単元の目的を詳細に具体化する。

第三段階



④単元をレッスンと学習活動に分解する。

⑤レッスンと学習活動のための仕様書を開発する。

第四段階

⑥学習者が何を学んだのかを評価するための仕様書进行設計する

ADDIEモデルへの準拠（設計）

第一段階 ①コースの目的を主要なコース目標へ変換する。



セミナーの目的

「支援者がTP支援の理論的知識を実践に生かせること」

第二段階



実践が期待される具体的な支援行動（5領域）

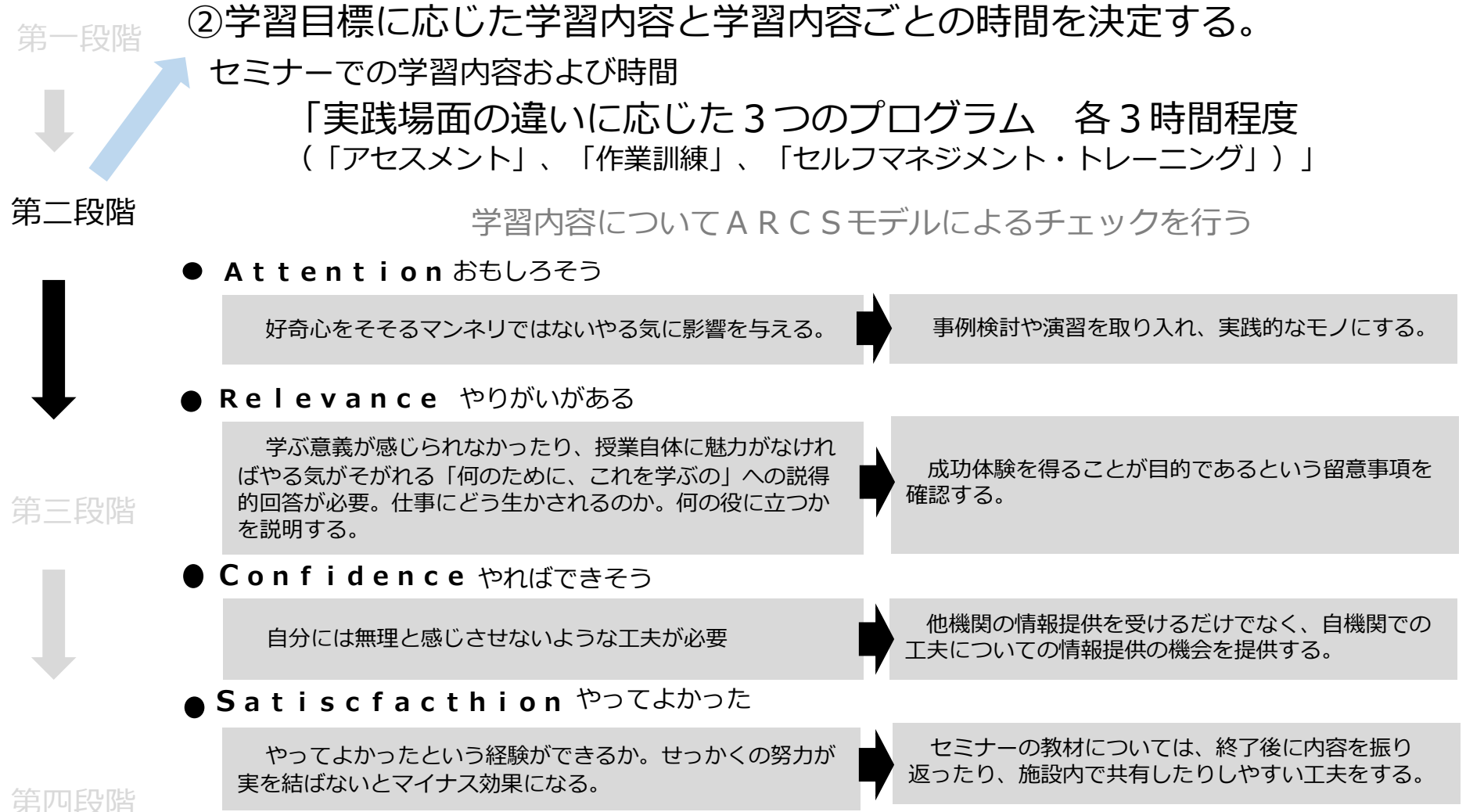
- イ. 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う
- ロ. 段階的に補完手段・補完行動等の適切な行動を形成する
- ハ. ストレス・疲労への対応を行う
- ニ. 十分にフィードバックする（不安・ショックへの対応を行う）
- ホ. 段階的なトレーニングを実施する

第三段階

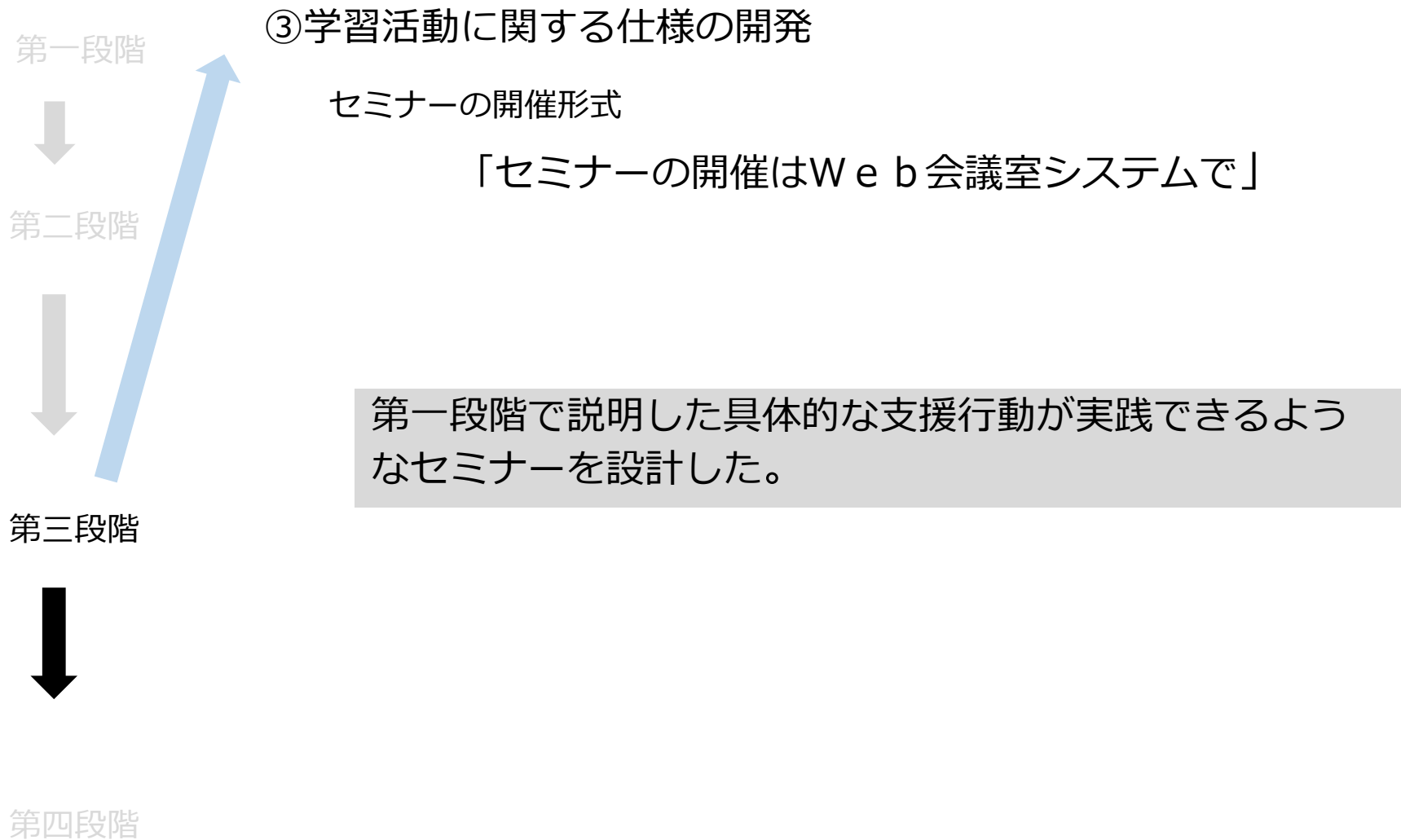


第四段階

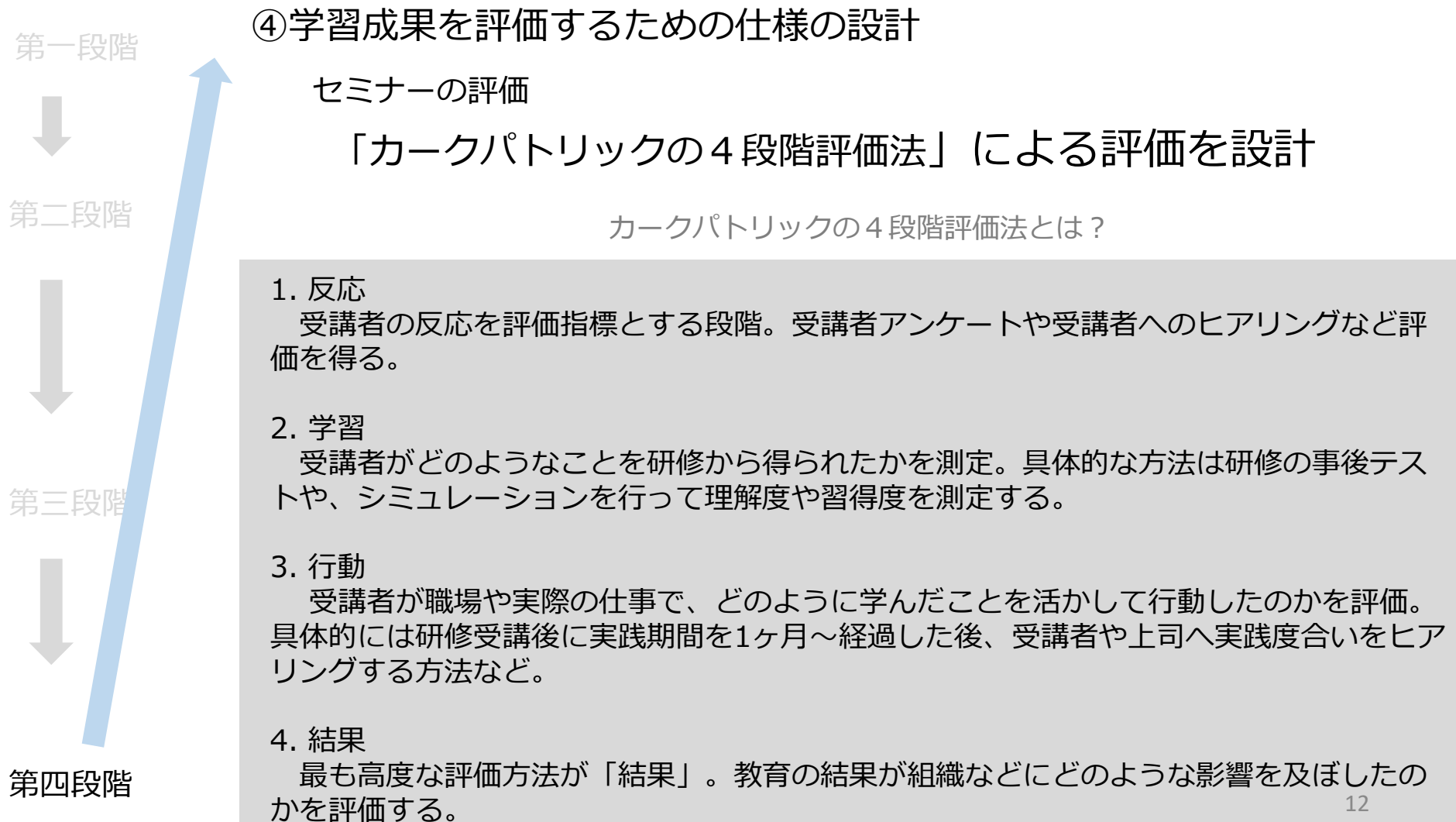
ADDIEモデルへの準拠（設計）



ADDIEモデルへの準拠（設計）



ADDIEモデルへの準拠（設計）



開発したセミナーの概要

第一回

14:00	トータルパッケージの基本的考え方 意見交換	自己紹介
14:40		はじめに
		意見交換
休憩 5分		
14:45	MWSによるアセスメントのポイント	特性の現れ方、作業遂行力の把握
15:30		課題分析（演習）
		補完手段・補完行動等の適切な形成
		意見交換
休憩 10分		
15:40	就労支援機関でのアセスメントのポイント	ストレス・疲労の対処状況をアセスメント
16:25		就労支援機関でのアセスメントの進め方
		意見交換
16:25	効果的なアセスメントに向けた事例検討	MWSによるアセスメントの実際
17:00		事例検討

第二回

14:00	トータルパッケージの基本的考え方 意見交換	自己紹介
14:45		はじめに
		トータルパッケージ
		意見交換
休憩 5分		
14:55	MWSによる訓練のポイント	特性の現れ方、作業遂行力の把握
15:30		段階的なトレーニングの実施
		補完手段・補完行動等の適切な行動を形成
休憩 10分		
15:40	ストレス・疲労への訓練のポイント	十分にフィードバックする
16:20		ストレス・疲労への対応を行う
16:20	効果的な支援に向けた意見交換	MWSを支援の中で効果的に使うために
17:00		意見交換

第三回

13:30	自己紹介 本日のテーマ 作業遂行能力を向上させるセルフマネジメント	自己紹介
14:25		本日のテーマ
		作業遂行能力を向上させるセルフマネジメント
休憩 5分		
14:30	セルフマネジメント訓練の流れ	セルフマネジメント訓練の流れ（ストレス・行動の対処）
15:15		事例で学ぶセルフマネジメント訓練の流れ
		質問・意見交換
		就労支援機関の方からいただくよくあるご質問
休憩 10分		
15:25	事例検討①・機能分析	問題行動をアセスメントするための視点
16:15		機能分析を理解しよう
16:15	事例検討②	事例検討
16:30		

開発したセミナーの資料の例

作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを探ろう

再評価が作業中に発生させたエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検定を行う。

利用者の身体特性の作業も含めた作業種の候補や関心を把握する。

評価

ベースライン期 (BL)

訓練

トレーニング期 (TR)

再評価

プロブ期 (PB)

評価の機能としてだけでなく、訓練を行うことや、その効果を確認することを通して、利用者の作業遂行力向上に向けた、学習機会を設定し、実施する

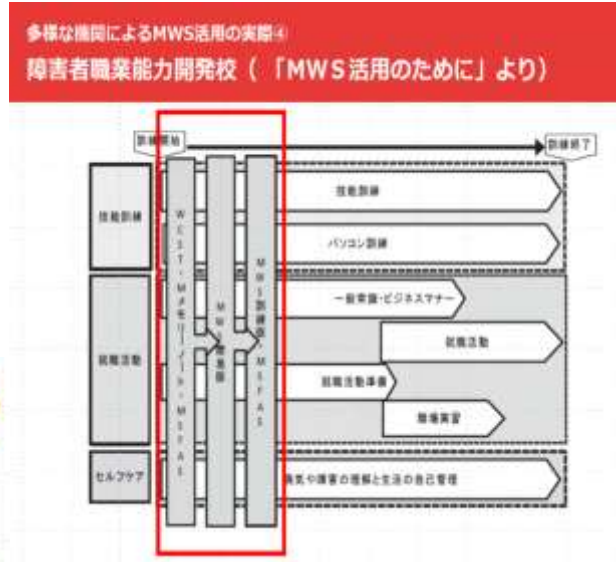
TP支援の重要ポイント

トータルパッケージ不安感・喪失感への対応

確実に身につけている

成功体験を積み重ねてもらう

作業によって辛抱や我慢を体得してもらうことがTP支援の目的ではない



ADDIEモデルへの準拠（実施・評価）

調査研究報告書で報告

【参考・引用文献】

- 1) Weingardt K.: The role of instructional design and technology in the dissemination of empirically supported, manual-based therapies. Clin Psychol Sci Pract (2004) 11:331-41.10.1093/clipsy.bph087
- 2) Dick W, Carey L. The Systematic Design of Instruction. 4th ed. New York: Harper Collins College Publishers (1996).
- 3) Gagne, R. M., Wager, W. W., Golas, K. C., & Keller, J. M. (2004). Principles of instructional design. Wadsworth Pub Co. (ガニエ, R. M., ウェイジャー, W. W., ゴラス, K. C., & ケラー, J. M. 鈴木克明・岩崎信 (監訳) (2007). 「インストラクショナルデザインの原理」 北大路書房
- 4) 山科正寿ら「障害の多様化に対応した職業リハビリテーションツールの効果的な活用に関する研究におけるヒアリング調査結果について」第28回 職業リハビリテーション研究・実践発表会 発表論文集, 障害者職業総合センター (2020)
- 5) 障害者職業総合センター「精神障害者等を中心とする職業リハビリテーション技法に関する総合的研究 (最終報告書)」. 障害者職業総合センター調査研究報告書No.57. (2004).
- 6) 山本 淳一 澁谷 尚樹「エビデンスにもとづいた発達障害支援: 応用行動分析学の貢献」行動分析学研究 23(1), 46-70, (2009)
- 7) 厚生労働省障害者雇用対策課「職場適応援助者養成研修のあり方に関する研究会報告書」 (2021)
- 8) 田村みつよら「障害の多様化に対応した職業リハビリテーションツールの効果的な活用に関する研究における利用者アンケートから」第28回 職業リハビリテーション研究・実践発表会 発表論文集, 障害者職業総合センター (2020)
- 9) John M. Keller (2009) Motivational Design for Learning and Performance: The ARCS Model Approach. Springer (J・M・ケラー 鈴木克明 (監訳) (2010). 「学習意欲をデザインする—ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン」 北大路書房
- 10) Kirkpatrick DL. Evaluating Training Programs. San Francisco, CA: Berrett-Koehler Publishers, Inc. (1994).